

近江大橋以南の琵琶湖および瀬田川におけるチャネルキャットフィッシュの分布

三枝 仁・田口貴史・酒井明久（滋賀県水産試験場）

近年、滋賀県内でチャネルキャットフィッシュの捕獲確認件数が増加傾向にある。滋賀県水産試験場では、県内の漁協に所属する漁業者に呼びかけ、本種が捕獲された場合には情報提供とサンプルの回収に協力を依頼している。これまで瀬田川洗堰の下流側（以下、洗堰下流という。）での捕獲が特に多く、捕獲された個体には稚魚も含まれていたことから、洗堰下流では既に繁殖しているものと考えられている。一方、2014年度以降、琵琶湖での捕獲が増加する傾向にあり、2017年度には瀬田川洗堰から琵琶湖南湖にかけての水域での報告が過去最多となるなど、本種の増加・拡散が危惧されている（図1）。

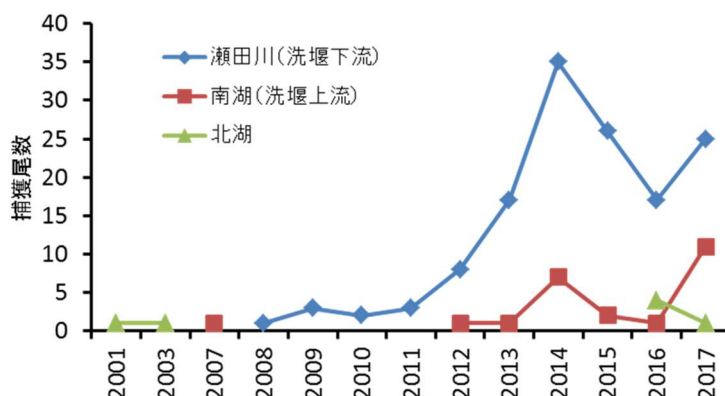


図1. チャネルキャットフィッシュ捕獲確認数の推移

こうした状況から、2018年に瀬田川洗堰から近江大橋にかけての水域において、本種の分布調査を実施した。本調査では、これまで県内でのチャネルキャットフィッシュ捕獲実績が高い延縄を用い、瀬田川洗堰から近江大橋付近までの区間を南北に概ね8等分した調査地点を設定し、各地点での捕獲状況を比較することとした。使用した延縄は、長さ500mの幹縄で針数60本を1把とし、調査地点ごとに1把ずつ設置した。調査は7月25日から9月7日までの間に5回実施し、捕獲した本種個体を体型測定したのち生殖腺の発達状況を確認した。

調査の結果、合計38把の延縄（針数のべ2,320本）により、チャネルキャットフィッシュ計24尾を捕獲した。調査地点ごとの捕獲数を比較すると、瀬田川洗堰に近い地点で最も多く捕獲され、洗堰から離れるほど捕獲数が減少する傾向が見られた（図2）。当調査における本種の捕獲率を過去の洗堰下流における延縄漁業での捕獲率と比較したところ、その獲れ具合に大きな差が見られなかったことから、瀬田川洗堰の上流側においても相当数が生息しているものと考えられた。また、今回捕獲した個体のサイズは体長52.3cm～33.5cmで、24個体中16個体は本種の産卵可能サイズと言われる体長40cmを超えていたとともに、実際に一部の個体では成熟した生殖腺が観察された。

今回の調査の結果により、琵琶湖においてチャネルキャットフィッシュが産卵・拡散する可能性が高まっていると考えられることから、琵琶湖での防除対策を速やかに実施する必要がある。

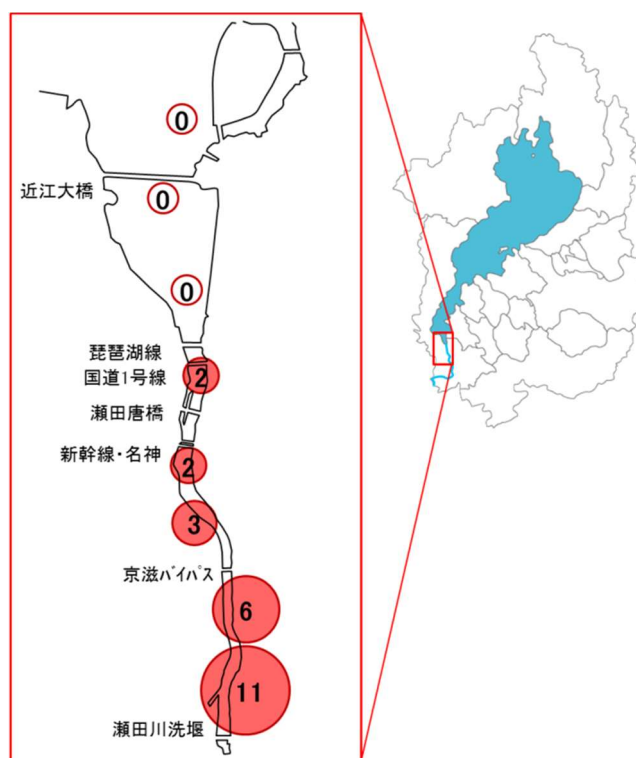


図2. 調査地点別の捕獲数